

# 児童・生徒の活動性を高める教材活用

## について

児童・生徒が様々な作業をするためには、それぞれの活動に適した道具が必要です。今回紹介する道具（装置）は、以前外部専門員で提供していただいたものです。自立活動室には、いろいろな教材がありますが、普段使っていないものもあります。学部に霧吹き装置を貸し出す機会がありましたので、情報をホームページ上で紹介し、共有の財産にしようと考えました。

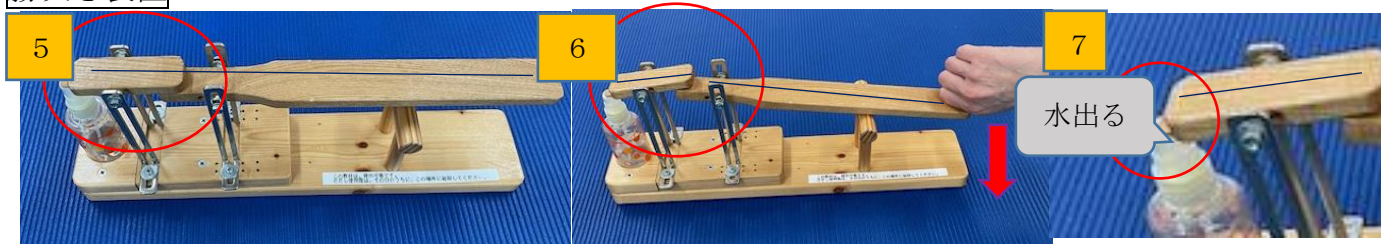
### A4サイズの紙を3つ折りにする装置



A4サイズの紙をきっちりと3つ折りして、封筒に入れる。この作業は、大人がしても確実にできるものではありません。上記の装置は、そのことを可能にする装置です。この装置を使って手作業を行うことができるケースが本校の児童・生徒に多く在籍しています。

- ・ 写真1は、装置に紙を挟み込み開始します。
- ・ 写真2と3のように、台紙に沿って紙を折ることで、紙が3つ折になります。
- ・ 写真4のように、3つ折りにした紙を封筒の中に差し込みます。
- ・ 封筒を軽く摘まみ、引き抜くと封筒の中に紙が入った状態で、引き抜くことができます。
- ・ 写真1の真ん中にあるページの台紙の幅を変更すれば、4つ折り装置も作れます。

### 霧吹き装置



- ・ 写真6のように上から押すと、軽い力でボトルから水を霧上に噴射させることができる装置です。ボトルは、100円ショップで購入できます。ボトルの大きさにより高さ調整できる仕組みになっています。
- ・ ボトル毎に色を変えれば、いろいろな柄を描けます。
- ・ てこの原理を学ぶ機会にもなります。

# 児童・生徒の活動性を高める教材活用

## について2

### 三角タングラムの工夫について



- ・ 写真1は、タングラムのカードです。厚紙でできています。児童・生徒にも馴染みのようで、何人かの生徒からは、病院のリハビリでも使っていると情報を得ました。
- ・ 写真2は、カードの絵柄の三角部分にはめ込む三角柱の木片です。この木製ピースを写真1の絵柄にはめ込んでみました。何か物足りなさを感じました。
- ・ 写真3は、カードの裏側に5mm厚のシナベニアを両面テープで貼り付けました。カードを立体的にしてみました。
- ・ 写真4、写真5、写真6は、実際に木製ピースを形に合わせてみました。2ピースをはめ込むだけですが、実際に形に合わせるとなるとどのように組み合わせるのか、少し戸惑いました。説明書には、2歳以上が対象となっています。
- ・ 写真5のような状態にする際に、木製ピースをわずか5mmの高さですが落とすと「カチ」といった音が鳴ります。この音がしたことで、達成感を感じました。リハビリで使用している生徒2人に試してもらいましたが、二人とも「高さがあるカードの方が良い」と評価してくれました。



指先や手首の動きを使って上手く操作しています。

### 24 か月から 29 か月の理解

- ・ ままごと遊びなど、よく知っている日常生活動作のしぐさができる<再現的思考>
- ・ 似た物の中から、もっとも大きい物と、もっとも小さい物を選び出す<数の概念>

\*上記のような内容も課題として取り上げると良いと思います。

参考文献：障害の重い子どもの授業づくり 4 飯野順子編著 (H23) 実態把握めやす表の活用について (諏訪)

自立活動担当：諏訪勝己



# 児童・生徒の活動性を高める教材活用 について 3

## 製氷皿を利用した手指の操作の実践

100円ショップで購入した製氷皿を使った教材を紹介します。購入した製氷皿は、写真2のように蓋付きで売られています。蓋を取ると写真1のように8分割された水の入る枠があります。

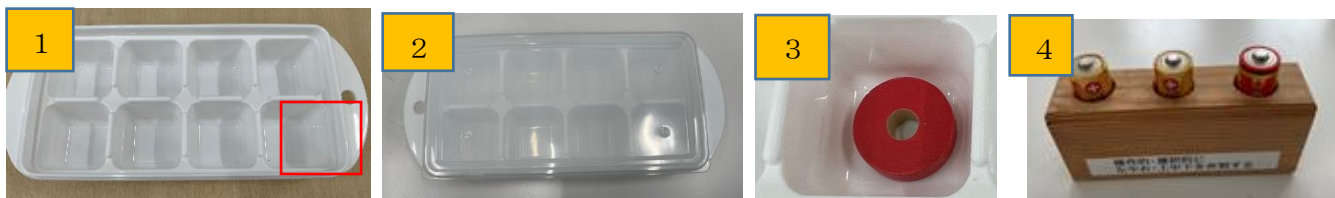


写真4の電池挿しの課題が難しい児童・生徒には、製氷皿などスペースに丸ペグを教員の指さしに応じて入れる指導をします。電池挿しのように、スペースの穴の位置や方向を意識できなくとも、手を放すことができれば、写真3や写真5のように丸ペグを入れることはできます。正確に位置方向を合わせなくても手を放せば入るのです。



写真6は、空きスペースが多く開いているところにブロックが入られるので、じっと見て操作しなくても、空きスペースにブロックを入れることができます。しかし、写真7は、位置や方向を理解していないとはめ込むことができません。写真6や写真8の取り組みは、写真7や写真4などしっかりとした型はめの学習につながります。

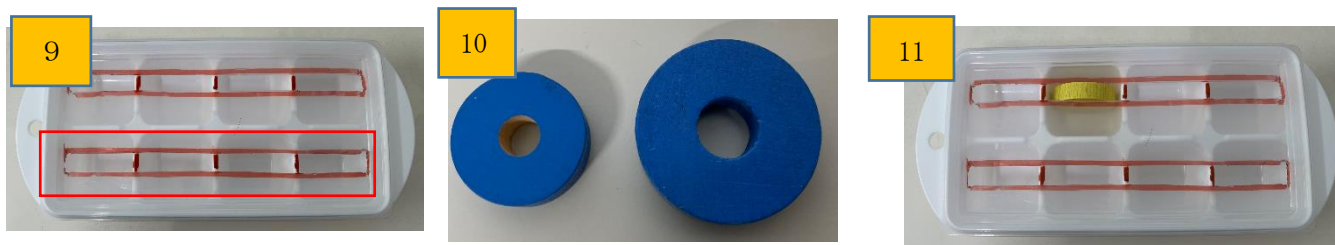


写真9は。製氷皿の蓋にカッターを使ってスリットを入れてみました。そこに写真10のような大・小の丸ペグを入れる学習を実施してみました。小さい丸ペグは、スリットに入れ込むと、製氷皿にしっかりと取まります。しかし大きい丸ペグは、写真11のようにすべてが取まりません。中に入れるには、製氷皿のスリットを指で拡げ丸ペグを押し込まなければなりません。大小の違いによって難易度が変わります。どうやったら大きい丸ペグを中に入れられるか、志向性が問われます。

★製氷皿にスリットを入れるには、角々をドリルで穴をあけて、切り取り線に沿ってカッターで切り取りました。素材によっては、切り取るのがとても困難な素材もあるようです。今回購入した蓋の原料樹脂は、押した感じも柔らかいポリエチレンでした。他の製氷皿の蓋は、容器本体と同じ、ポリプロピレンが原料樹脂でした。押した感じも硬く感じました。

# 児童・生徒の活動性を高める教材活用 について4

自立活動室には、オーシャンスイング、木製ブランコ、スパイダーなどの児童・生徒に人気のある揺れ遊具（教材）があります。今回は、それらを使った実践についてお知らせします。まずは、揺れ用具の動きの特徴について説明します。



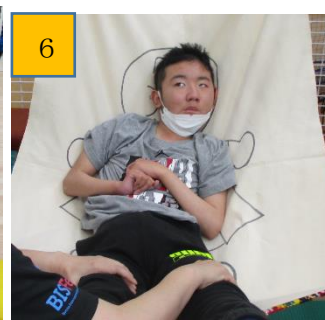
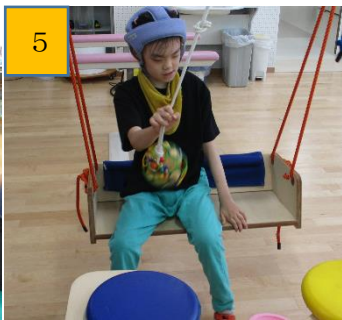
揺れ用具	実施可能姿勢	揺れ方向	可能な運動学習
1：オーシャンスイング	・立位 ・座位 ・臥位	・前後 ・左右	・前庭覚・固有覚によるボディーイメージ作り ・臥位保持・座位保持・立位保持 ・上肢・体幹を使った自発運動実施
2：ブランコ	・座位	・前後	・前庭覚・固有覚によるボディーイメージ作り ・座位保持、座位での手の操作 ・下肢・体幹を使った自発運動の実施
3：スパイダー（スパイダーシートブランコ）	・立位 ・座位 ・臥位	・前後 ・左右 ・上下	・前庭覚・固有覚によるボディーイメージ作り ・臥位保持・座位保持・立位保持、姿勢変換 ・下肢・上肢・体幹を使った自発運動の実施

## 前庭感（三半規管で感じる）・固有感（筋肉や関節などで感じる）について

学習指導要領自立活動編には、視覚、聴覚、触覚、嗅覚といった聞き慣れた感覚のほかに、固有覚、前庭覚などの感覚を十分に活用できるようにすることと記述されています。そして、固有覚、前庭覚に付いて以下のように説明があります。固有覚とは、筋肉や関節の動きなどによって生じる自分自身の身体の情報を受け取る感覚であり、主に力の加減や動作等に関係している感覚と説明されています。また前庭覚とは、重力や動きの加速度を感知する感覚であり、主に姿勢のコントロール等に関係している感覚と説明されています。つまり、固有覚、前庭覚は、姿勢保持や運動する際の必須の感覚で、外部から伝わる聴覚や視覚よりも誰もが理解しやすい（感じやすい）感覚なのです。

固有覚、前庭覚（身体の内部情報）＞聴覚（身体の外部情報）＞視覚（身体の外部情報）

### 【みんな大好き揺れ感覚遊び】



- ・写真4は肘や体幹を揺らしスイングを動かしています。
- ・写真5は、不安定なブランコ上での座位を保ち、教材を手にしたところです。
- ・写真6は、上下左右の揺れの変化に受け止めているところです。

自立活動担当：諏訪勝己



# 児童・生徒の活動性を高める教材活用 について5

## 【オーシャンスイングの臥位での実践】



オーシャンスイングをつかった学習は、股関節の屈曲制限のある児童・生徒が臥位で姿勢保持をして学習を行います。多くは一人での座位保持や援助座位保持で実施します。臥位で学習する児童・生徒は、自分の身体を使ってオーシャンスイングを動かすことはできません。しかし、オーシャンスイングを揺らすことにより、自分の身体で感覚情報を受け取り、ボディイメージを形成することや、オーシャンスイングが止まっている

のか、動いているかなどの理解など認知的な取り組みができます。例えば、動かしているオーシャンスイングを、時折止めて変化に気付かせ、教員から「オーシャンスイングを動かしますか」など児童・生徒の気持ちを確認します。そして、児童・生徒が表情の変化や身体や手指の動きの表出を確認して、再びオーシャンスイングを動かすのです。こういったやり取りを経験することで、児童・生徒の表出を促します。

## 【オーシャンスイングの座位での実践】

本校には、座位保持をしてバーを握り、腕の曲げ伸ばしと体幹の前後の動きによりオーシャンスイングを動かす児童・生徒が複数います。その中には、援助を受けてスムーズに歩行をする児童・生徒もいますが、立位で片足を上げてどうにか歩こうとするといった児童・生徒もいます。そして、いずれも一人で臥位から座位に姿勢変換が難しい粗大運動の状況です。つまり座位保持が未完成な状態の児童・生徒がオーシャンスイングを自分で動かすのです。これはすごいことだと考えます。なぜ、できるのかははっきりとは言い切れませんが、一言でいえば「好きだから」だと考えます。自分のやりたいことを実現しようとする気持ちが、持てる力を最大限に発揮して、オーシャンスイングを動かすのです。オーシャンスイングの実践ではありませんが、似たようなエピソードが電動車いす操作の実践であります。練習し始めのときに、コントロールレバーを不規則に動かしている生徒がいます。その生徒は、エレベーター好きで本人から「エレベーターに行きたい」と発言がありました。「わかりました。行きましょう」と答えると、エレベーターの方向を理解しているのか、そちらの方向にコントロールレバーを動かしたのです。「好きこそものの上手なれ」ということわざがありますが、まさにその言葉がぴったりな体験をしています。



・手の細かい操作をするためには、しっかりと握ること、姿勢保持などで掌を床に支持するなどが基本になります。また、上手く身体を使ってオーシャンスイングを揺らすことは、〇〇したら〇〇〇〇になるといった因果関係の理解を図ることになります。